



日本体育大学 体育学部 健康学科 教授

野井真吾さんにきく！



子どもの「こころ・頭・からだ」がともに元気に育つためのヒント

からだの“おかしさ”を科学する



近ごろ子どものからだと心がなんだか“おかしい”

低体温、疲れやすい、キレる、やる気が出ない・・・

そんな子どもたちとりまく環境を最新の研究データから科学的にひもとき、子どもに今、何が起きているかを探っていきます。健やかに育っていくためにできることは？子どもが力を発揮するためのヒントが見つければ、やる気スイッチを入れるコツもわかるかもしれません。

7月7日(日) 14:00～16:30

西区民文化センター



参加費 1000円
高校生以下無料

主催：特定非営利法人

ひろしまチャイルドライン子どもステーション

〒730-0013

広島市中区八丁堀7-11 広島 YMCA 気付

TEL/FAX 082-233-8655

事務局携帯 090-7998-6113

E-mail hiroshima-childline@fine.ocn.ne.jp

★事務局まで電話かFAXまたはEメールでお申し込み下さい。

定員 100名、定員になり次第締め切ります。

後援：広島県教育委員会・広島市教育委員会



野井真吾さんプロフィール

1968年、東京都生まれ。日本体育大学体育学部健康学科教授。子どものからだや心が「どこかおかしい」「ちょっと気になる」という保育・教育現場の先生方、子育て中のパパ・ママの実感から、子どもの“からだ”にこだわってその実体を追究する活動を続けている。大学での研究活動や講義のほか、全国の学校や機関で、さまざまな講演活動を行い、先生・親・子どもたちからも絶大な支持を集めている。主な著作に『新版 からだの“おかしさ”を科学する—すこやかな子どもへ6つの提案』（かもがわ出版)など。

子どものからだ調査結果から、やる気や意志、集中力、判断力、コミュニケーション能力などの働きを司る脳の前頭葉の部分が十分に発達していない子どもが多いことがわかったそうです。やる気や意欲が乏しくて、すぐに「疲れた」と言う背景には、日々の生活に満足感や充足感をもっていないという点があることも心配されています。睡眠問題を抱え、交感神経が過剰状態で、過敏で落ち着きがないということ・「良い子」を演じている反面、食事や排便習慣が乱れている、など—これは虐待を受けている子どもの身体症状なのですが、現代の日本の子どもたちに重ね合わせることができないでしょうか。親に虐待されているわけではないのに、一体、どういうことなのでしょう。子ども達の身体に今起きている状況や、その緊急性をしっかりと理解し、社会全体で、子ども時代を豊かに過ごせる仕組みを考えていく場にしていきましょう。多くの皆さんの参加をお待ちしています。



チャイルドラインは

子どもの声に耳を傾け、子どもの気持ちをありのままに受け止め、

共感することによって、子どもの心を開放し、自立を支えることを目的とします。

ひろしまチャイルドラインは、2000年3月から子どもの声を聴き続けています。

2018年度は、14977件の子どものからの電話を受けました。友だち関係、いじめ、虐待、性の悩み、あるいは話し相手としてチャイルドラインは多様な子どもの声に寄り添い、受け止めてきました。

チャイルドラインの活動は、北ヨーロッパで1970年代半ばより始まり、アジアやアフリカ地域でも開設され、世界145か国で必須の社会システムとして位置づけられています。

会場へのアクセス



公共交通機関

JR JR横川駅南口より約200m

路面電車 横川電停より約200m、

横川一丁目電停より約240m

バス 横川新町バス停、横川一丁目バス停より約240m

西区民文化センター地下駐車場の利用について

利用可能時間 9:00-21:00

※ご来館にはできるだけ公共の交通機関をご利用ください。

特定非営利活動法人

ひろしまチャイルドライン子どもステーション

住所: 広島市中区八丁堀 7-11 広島YMCA 気付

電話/FAX 082-233-8655

事務局携帯 090-7998-6113

E-mail: hiroshima-childline@fine.ocn.ne.jp